

道院だより

No.35

金剛禅総本山少林寺 埼玉北浦和道院

2011年 9月13日(火) 発行

文責 道院長 梶谷 憲 皇

合掌

お盆休みが終わり、道院の修練も通常に戻りました。それぞれ、よい夏休みを過ごされたことと思います。さて、夏休み後、恒例の「埼玉北浦和・埼玉幸手・埼玉大学・日本工業大学合同夏合宿」と、5月に実施予定だった「さいたま市民体育大会 少林寺拳法大会」が9月4日に実施されました。また、8月6日には、「全日本少年少女武道錬成大会・少林寺拳法大会」が行われました。結果については、連絡事項の欄をご覧ください。

夏合宿は、今年は福島県の磐梯少年交流の家で行いました。原発事故による放射能を心配しましたが、現地の放射線量の状況等考慮し、安全であると判断し、実施しました。途中参加も含めて40人の拳士が参加して行われました。現地へ向かう途中の高速道路が、ところどころ傷んでいたり、修復された跡があったりと、地震の爪痕が、半年たった今も、生々しく残っていることに、あらためて胸が締め付けられるような思いでした。

合宿は、全体での基本練習、クラス別での術科練習と、非常に充実した修練ができました。指導にあたるのは、道院の幹部拳士ですが、練習内容は、特に指定せず、任せています。任されたクラスの実態を考え、幹部拳士が、自分の個性を十分に生かしながら、指導にあたってもらいたいと考えているからです。また、指導を受ける側も、指導者の個性を尊重し、“初生の赤子として真純単一にこの^法修行に専念す”です。普段から言っていることですが、十人十色という通り、人それぞれに個性があり、同じ技でも、指導するときには若干違いがあります。しかし、その時に教わる方が、あの先生はこう言っていたとか、あの先輩と言っていることが違うとあって、素直に受け入れられないとしたら、それは、決して自分の為にはなりません。まずは、素直に受け入れることです。いろいろなことを素直に受け入れ、自分で試しながら、自分なりのものを作っていけばいいのです。指導者側からしても、素直に受け入れる人には、どんどん教えたいという気になります。逆にそうでない人、素直に聞かない人には、教えたくなくなります。つまり、素直に聞き入れる人は、結果として、いろいろな教えを、自然と受けることができ、自分の為になっているのです。

食事良かったですね。バイキングで、たっぷり食べられたようです。夜の懇親会も盛り上がりました。恒例の、「入門の動機と現在の心境」も、皆、しっかりと言えていました。二日目の懇親会は、これまた恒例の“演芸発表会”。学生が中心ですが、学生諸君も、伝統がしっかりと受け継がれ、毎年創意工夫が見られ、これからの日本を、世界をしっかりと担っていってくれること間違いなしといった安心感を持つことができるような、立派な発表でした。先輩たちの無茶ぶりにも、臨機応変に答え、まさに少林寺拳法の奥義を、既に体得しているような、そんな感じでした。

この合宿は、年少から学生、一般と、幅広い年齢層の拳士が交流できることも、大きな魅力です。多くの人たちとの触れ合いが、人としての幅を広げ、大きく成長する糧となっていることは間違いありません。今回、年少のリーダーを2人の高校生に任せました。2人とも、その任を自覚し、食事からお風呂、就寝と、しっかり面倒をみてくれました。こうした良き“範”が、次のリーダーを育てていくのだらうと思います。ご苦労様。

また、本合宿の実施には、多くの裏方の協力があったことを忘れてはいけません。何事も、当たり前のように出来ていても、そこには、多くの支えがあるのです。そうした多くの支えがあることに気付き、感謝することができる心を持つ、これも“八方目”ですね。そして、そうした多くの支えに感謝しながら、自己の在り方を考えること、これが“脚下照顧”です。少林寺拳法の教えは、様々な人生の在り方を示唆してくれます。

最後に、本合宿に、いろいろな方から、飲み物等の差し入れをいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。また来年も、素晴らし^い合宿が実施できればと思っております。その際は、またご協力ください。

大会成績、大変良い結果でした。日ごろから、基本が大切であると言い、基本練習に多くの時間を費やしていますが、やはり、そうした地道な修練こそが、今回の結果に結びついていると思います。一般有段の部で最優秀をとった石川・上野組は、ほとんど練習する時間がなく、実質、2日ほどの練習でした。一般級拳士の部の半田・加茂組にしても、1週間ほどの練習ですね。それでも、1位・最優秀をとることができました。これは、やはり、日ごろの、基本練習をいかにしっかりとこなしていたかということです。普段から言っています。「型に捕らわれてはいけない。“実”に還れ。」と。少林寺拳法では、その技を“法形”と表記し、“法型”とは言わない。なぜなら、“型”とは、鑄型のごとく、型にはまった変わらないものを言い、“形”とは、臨機応変に変化する、“実”を伴うものであるからです。

演武は、少林寺拳法の技を集大成し、表現したものです。ならば、少林寺拳法の本来の姿を体現したものでなければなりません。本末転倒しないように、しっかりと本質を見極めることが大切なのだと思います。

結手

連絡事項

① 全日本少年少女武道錬成大会・少林寺拳法

出場拳士

3級の部 糠谷・上野組

6級の部 高野・梶谷組

見習～7級の部 成田・上野組

糠谷・上野組は、255点以上の優秀演武として表彰されました。

② さいたま市民体育大会・少林寺拳法大会結果

年少・単独演武の部 第2位 優秀賞 梶谷（流） 第3位 優良賞 上野（眞）

年少・6級の部 第1位 最優秀賞 高野・梶谷（銀）組

中学生・単独演武の部 第2位 優秀賞 石田

一般級拳士の部 第1位 最優秀賞 半田・加茂組

一般有段の部 第1位 最優秀賞 石川・上野組

③ 練習場所の変更について

常盤小学校の体育館の使用制限により、下記のように練習場所が変更になります。ご確認ください。

10月14日（金） 仲町公民館

10月18日（火） 上木崎公民館

10月28日（金） 大東公民館

11月 1日（火） 上木崎公民館

11月 4日（金） 大戸公民館

11月 8日（火） 本太公民館

※ 11月より、常盤小学校の体育館が耐震工事のため、来年3月まで使用ができなくなります。そのため、しばらくは公民館等の場所を借りての練習となります。なかなか特定の場所を得ることができないので、いろいろな場所を借りての練習となりますので、練習場所を確認いただき、参加してください。変更等は、道院ホームページに適時更新していきますのでよろしくお願いたします。